

M14b 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の補償光学装置及びイメージローターの偏光特性測定

阿南徹、仲谷善一、金田直樹、一本潔（京都大学）、萩野正興（国立天文台）

飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡に設置された複数の波長帯を観測できる水平分光器を用いた偏光分光観測システムの開発を進めている。装置の完成によって、複数の波長帯を同時に高精度に偏光分光観測することが可能となり、光球から彩層までの連続した磁場構造の測定、複数のスペクトル線を用いた電場測定、磁場の乱流成分の測定などの新たなプラズマ診断手法の開拓が可能となることが期待される。太陽からの偏光を高精度に測定するためには望遠鏡や補償光学装置、イメージローターの偏光特性を測定する必要がある。可視光から近赤外における望遠鏡の偏光特性は Anan et al. (2012) によって測定された。現在、申請者らは2つの回転波長板を用いた偏光特性を測る手法 (Ichimoto et al. 2006) を用いて、補償光学装置やイメージローターの偏光特性を測る装置を開発している。本ポスターでは、偏光特性を測定する装置や測定結果について報告する。